

防災世界子ども会議プロジェクト

世界の仲間と防災の情報や知恵を共有し、安全な社会をつくろう！

防災世界子ども会議代表 岡本 和子 副代表 納谷 淑恵

インターネットによる双方向交流のネットワークを活用して防災教育に取り組む防災世界子ども会議プロジェクトは、阪神・淡路大震災から10年を機に、大震災の経験や教訓を、兵庫の子どもたちが核となり、世界の子どもたちに伝えよう、未来に活かそうという思いでスタートしてから早4年が経過した。今年度の活動は、「災害安全マップづくり」や「キッズ防災バッグづくり」を通して、「地球温暖化と防災」をテーマとし、カリブのトリニダード・トバゴで開催の会議を目指して協働学習に取り組んだ。日本の子どもたちは、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターでの展示発表とテレビ会議を活用したNDYSフォーラムに参加し、最終章の会議へ活動報告をつなげた。

1 プロジェクト参加校

【日本の参加校：4校 212名】

- 1 兵庫県立川西高等学校宝塚良元校
2年30名
- 2 神戸市立葺合高校国際科 2年15名
- 3 兵庫県三木市立自由が丘中学校
2年137名
- 4 名古屋市立柳小学校 4年30名

【海外の参加校：12カ国・地域 27校】

<台湾>

- 1 National Fenghsin Senior High School
- 2 壽山國中 So-san JHS
- 3 鳳西國中
- 4 国立鳳山商工 SHS
- 5 国立南科国際実験高級中学

<インドネシア>

- 6 SMA 1 Padang

<イラン>

- 7 Kherad high school

- 8 Saba high school

<トルコ>

- 9 Tuncsiper school

<パキスタン>

- 10 Doverwood Elementary school

<ロシア>

- 11 National No.1129 School

<スロバキア>

- 12 Secondary metallurgical school Saca

<トリニダード・トバゴ>

- 13 El Dorado Comprehensive Secondary
- 14 Tunapuna Government Secondary
- 15 Naparima Boys Secondary College South
- 16 Tranquility Secondary
- 17 Naparima Girls College
- 18 Vishrou Boys College
- 19 Speyside High School
- 20 Lakshmi Girls Hindu College
- 21 Mu Curapo Girls R,C College
- 22 Margaret Sampson- Speyside High School

- 23 Hillview College

<カナダ>

- 24 W.H. Day Elementary school

<アメリカ>

- 25 McConnell Elementary School

<ペルー>

- 26 Aichi Nagoya School

<ギニア>

- 27 Sierra International School

2 プロジェクトの1年間の流れ

8月 参加校エントリーシート送付

《協働学習の期間》-----

9月 各校自己紹介、地球温暖化防止植樹

10月～12月 過去の災害調査並びに学校周辺地域の調査、災害安全マップ作成

1月 iEARNフォーラムでのディスカッション

2月 展示のための災害安全マップ、キッズ防災バッグと説明シートを事務局へ送付

3月 NDYSフォーラム&会議のプレゼンテーションファイルを事務局へ送付

《成果発表》-----

3月 展示発表とNDYSフォーラムに参加

4月 防災世界子ども会議2008 in トリニダード・トバゴに参加

《報告書づくり》-

◇ NDYSで育ったユースの活躍! ◇



1・17/2008NDYS ニュースレター創刊号発行

私は、この4月に大学生になります。NDYSとの関係はこれからも続けていくつもりです。NDYSは私に世界について考える機会を与えてくれました。今度は、私がNDYSを次の局面へと引っ張っていく番です。(編集者のコメント)

3 NDYS による防災協働学習

世界の仲間と防災考えよう！
《実践プログラム》

1. 災害安全マップをつくろう！



2. キッズ防災バッグをつくろう！



《スローガン》
コミュニケーションが命を救う！
阪神・淡路大震災を経験して、「防災の情報や知恵を各国の子どもから子どもへと伝えていけば、助かる命がある」とプロジェクトをスタート。

《コミュニケーションのツール》
iEARN フォーラムやメールを活用している。この協働学習の流れの中で、多地点から参加して情報や知恵を共有できるテレビ会議を実施している。英語が苦手な生徒は世界の言語をつなぐ「言語グリッド」を使ってコミュニケーションをとっている。フォーラムに母国語を入力するだけで英語の文章が出来、ストレスなく意見交換を行うことができる。

4 プロジェクトの成果と課題

(1) 成果発表会

●展示発表とテレビ会議を活用したフォーラム
各国・地域の活動発表から温暖化の影響を受け洪水や早魃などのさまざまな災害に直面している問題を身近に感じることができた。また今、

一致団結した行動をとらなければ何も変わらないと子どもたちは感じた。



●NDYS 2008 in トリニダード・トバゴ
「気候変動と防災」をテーマとした会議は、開催地の子どもたちの発表に説得力があった。世界の若者が情報や知恵を共有し、次の世代にも引きついでいくことの大切さを感じ、宣言文 *“One Village, One Effort, THE TIME TO ACT IS NOW”.common purpose*”を採択した。



(2) 課題

・国内外からより多くの参加校とともに協働学習を通して防災教育の輪を広げたい。
・同じスケジュールで進行しているが、予定通りに進まないなど問題がある。この点を 2008 年度には解決したい。

5 実践の資料

問い合わせ先：ndys@jearn.j

